

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471501266		
法人名	特定非営利法人 ほんまち平安の家		
事業所名	グループホームほんまち平安の家		
所在地	広島県福山市丸之内二丁目5番6号		
自己評価作成日	平成27年3月17日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台27-17-101		
訪問調査日	平成27年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「個を大切に、ゆったりとした居心地の良い暮らしをさりげなく支援する」に基づいて、環境づくり、言葉がけなど十分に注意し、職員全体で実施するように取り組んでいる。又、お年寄りさんの体調の早期発見、御家族・主治医との密な連絡を行い、その時々細かな対応に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街に位置している。徒歩で買い物に行ける場所にスーパー等があり生活の利便性が高い。理念である「個を大切に、ゆったりとした居心地の良い暮らしをさりげなく」を玄関等に掲げるとともにミーティング時に唱和している。職員一人ひとりが理念を良く理解し、運営やケアのすみずみまで浸透しており、達成することに生きがいを感じている。事業所の設立に地域が積極的に関わっており、地元のボランティアとの交流が盛んである。また、運営推進会議には地域からの参加が多く、毎回、20人～30人で開催されている。1日利用体験も実施しており、利用希望者のニーズに積極的に応えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関など良く見える所へ掲示している。事業所の理念の中に地域サービスが盛り込まれており、施設の開放など、実践している。GHの理念は、ミーティング時唱和し、少しでも近づけるように心がけている。	理念の「個を大切に、ゆったりとした居心地の良い暮らしをさりげなく支援する」が職員に意識付けされており、共有して実践につなげている。利用者の笑顔を引き出せるよう、日々、個々に応じたケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事(敬老会、文化祭など)こまめに参加している。又、散歩などの外出時、挨拶などをするように心がけている。地域の方がボランティアとして定期的に来訪してくださっている。	地域の行事や清掃には、積極的に参加している。近くの寺などによく散歩に出かけ、秋祭りには神輿が来てくれるなど、日常的に交流している。囲碁や習字などの地域ボランティアの訪問も頻回で利用者とともに活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者を対象に、囲碁サークルや文化祭、夏祭りなどを開催し、訪問してくださっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告はしているが、出席人数が多い事もあり、自由な意見が出ない為、呼びかけを行っている。定期的な運営推進会議の開催と、内容の充実に心がけている。	年6回、町内会長・老人会長・女性会・民生委員・包括支援センター職員や地域住民などの総勢20~30人参加して、状況報告や福山城の話や感染症などの講演会が行われ、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では連絡をし、又、市担当者に分からない所などを相談している。	日頃から必要に応じて連絡を取り、協力関係を築くよう積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時、職員全体で再確認すると共に、実践に取り組んでいる。又、それに伴い家族への説明をこまめに行っている。	月に一度の勉強会やミーティング・ケアカンファレンスの中で、身体拘束・言葉の拘束について確認し合い、見守りや声かけ・ケアの工夫を重ね、拘束をしない支援に努めている。研修参加者が報告書を作成し、情報を職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に、職員全体で再確認すると共に、職員同士声を掛け合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、報告書や資料を確認しているが、実際に活用できるような支援はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を十分に説明すると共に、ゆっくり話をする時間を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の会話、様子から入居者の意見などを聞き、家族の面会時、意見要望があれば申し送りなどで報告し、話し合っている。又、玄関に投書箱を設置し、ミーティングや連絡帳で職員に伝え、考えてもらっている。	訪問時などに家族等から意見・要望を聞いている。出された意見はミーティングや連絡帳で職員で共有し、検討したうえで運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りなど、意見を聞く機会を設け、意見の内容から話し合い、実施している。必要ならば、理事会へも意見提出を行っている。	管理者の「まずやってみる」の方針から、ミーティングや申し送り時など様々な機会を捉えて、職員からの情報やケアの提案などを聞いている。出された意見は仕切りドアの改善などに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の要望に合わせて勤務表を作成し、又、職員一人ひとりから出た意見を取り上げ改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、講習会を積極的に受講してもらい、報告書を出してもらっている。内部研修もその時のニーズに内容を合わせて定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会などに所属し、又、研修を通じ、情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接にて、じっくりとご本人の様子や気持ちをお聞きし、その情報を全職員に共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接の前にじっくりと家族の話をお聞きし、対応を考えている。又、その情報を職員に共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要があれば、入居する前に体験入居期間を設け、家族、ケアマネと共に相談し、本人が出来るだけ混乱せず安心して入居できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日常の会話の中から要望、思いなどをよく聞き、その答えによって出来る限り答えるようにしている。又、会話の中にお年寄りさんに入って頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告の手紙をお渡ししている。面会時には様子を伝え、体調などの変化がある時は、こまめに電話連絡すると共に、お願い出来る所は、お願いしている。全員ではないが、定期的に食事介助などして下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブで馴染みの場所へ行ったり、馴染みの人と話しやすい場面作りをしている。	利用者は地域の方が多く、近所の寺まで散歩したり、家までドライブするなどの支援をしている。友人や知人が来られた際には、居室でゆっくり話ができるよう配慮し、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の希望や、入居者同士の性格、特徴などから、日中過ごされる座席を決め、雰囲気、環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時に訪問したり、訪問して下さっている。入居者が近所の方が数人おり。外出中に会うなど、話などを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や動作の中から本人の意欲を引き出し、皆で検討している。ケアカンファレンスを通じて把握に努めている。	日常生活の中で、利用者は自分の思いや意向を伝えている。困難な場合は、しぐさや目線・表情、今までの生活歴から察している。利用者の視点に立った把握に努め、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	経過記録、個人ファイルを充実させると共に、本人、御家族から情報を得て皆で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を詳細にし、申し送り、記録で伝えることにより、細かな対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に入居者ごとに担当を決め、ミーティングやケアカンファレンスで話し合い、それを基に家族へ伝え、介護計画を作成している。	担当者がアセスメントを行い、本人の現状や家族の希望などを考慮して原案を作り、家族・主治医を含めた担当者会議で検討後、家族の了解のもと介護計画を作成している。見直しは3か月ごとで、緊急時はその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の経過記録をしっかり記入し、確認後、業務にあたっている。ミーティング、ケアカンファレンスなどで話し合い、変更があれば介護計画をその都度、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望やその時々状況から、デイサービスなどへ参加していただいたり、なるべく柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急連絡先を警察に登録させてもらったり、消防との密な連携や民生委員、公民館、ボランティア、地域の方などの協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、事業所が医療連携の契約を行っているかかりつけ医へ同意の上、変更していただいている。しかし、希望や他への受診依頼があれば、対応している。	利用者の希望するかかりつけ医には、初診と必要時に同行し、結果について家族と連携している。週1回の協力医院からの訪問看護や歯科の往診もあり、家族や利用者に安心感を与えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護職員と週1回の訪問看護師により、常に健康を管理している。医療ノートを作り、情報を共有、必要なら主治医へ報告し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や家族の意向に沿って、入院先を決定している。又、入院中も訪問し、本人、家族と連絡をとり、病院側からも情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、契約時、又は、状況に応じて繰り返し家族、かかりつけ医と話し合いをしながら、対応している。	利用開始時に出来ること・出来ないことを本人及び家族に説明している。状況に応じて医師・家族が話し合う場を設定している。緊急時には医師及び看護師と24時間対応の体制が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告書、ヒヤリハット報告書を作成し、毎月ミーティングで報告、話し合っている。又、定期的な訓練は行っていないが、常に話し合い、情報を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は定期的に行っており、地域の方々も参加して下さっている。	消防署の指導のもと、運営推進会議のメンバーも参加した訓練となっている。また、福山市が実施する訓練にも毎年、職員が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけなど、不要な発言があった時は、その都度、ミーティングの時などに注意、改善方法を話し合っている。	言葉かけや対応について、ミーティング時及び日常的な先輩による後輩の指導、また管理者からの指導が徹底しており、利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しっかり言葉かけを行い、待つ姿勢を持つように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間や日中の状態、体調の確認など申し送り、細かく行い、その日の過ごし方など声かけを行い、要望を聞いて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのある服や化粧など、なるべくその方らしさを保てるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中から希望の食事などがあると、沿うように細かなメニュー変更をしている。食べる意欲が出るような声かけや介護に心がけている。又料理や片付けなど、出来る所は参加していただいている。	日常的に利用者もメニュー作成に加わったり、誕生日には好みのもににする等、食事が楽しみなものとなるよう、きめの細かい配慮がある。毎食、手作りで職員も一緒に和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食器を選び、食材、調理方法から、形態や量など、その時々に合わせて変更している。又、生活記録にて1日量を把握し、摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは、実施しており、口腔内のトラブルがあれば、歯科医へ相談、往診、受診の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、できる限りトイレでの排泄を実施している。入居者の重度化もあり、トイレでの排泄が難しい方は、陰部洗浄や個々、状況に合わせてパットの変更もこまめに行っている。	排泄パターンの記録及び利用者の表情等により声かけをしている。夜間は睡眠に重点を置いているが、利用者の意向を尊重し個別の対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給、朝食時のヨーグルトや牛乳を毎日飲んで頂いている。又、食物繊維の食事や漢方茶、運動を実施している。必要なら主治医へ相談し、対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯はほぼ決まっているが、希望があれば変更し、無理強いはいないようにしている。又、色々な入浴剤やゆず湯など、視覚にも嗅覚にも楽しんでもらっている。	週に2~3回を基本とし、時間帯は昼食後から夕方にかけてである。デイサービスのない日は午前中の中の入浴もある。拒む利用者については、声かけ等の工夫により対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力や体調その時々に合わせて、自由に横になっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬情報を記録、確認している。変更がある時も同様に行っている。服薬時、誤薬がない様に2、3回の重複した確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った楽しみや趣味、出来ることを提供し、継続して行ってもらっている。又、入居者同士で協力して頂けるようにも、心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常の会話の中から希望をお聞きし、散歩や買物へ行って頂いている。又、季節毎にドライブへ出掛け、可能ならご家族への参加もお願いしている。	近くの寺や神社等への散歩、また食材の買出し等に出かける支援をしている。利用者の状況に応じて季節ごとに花見等のドライブにも積極的に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があればお金の所持や使うことを支援しているが、希望が少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、手紙、電話のやり取りを行っている。来訪することが出来ない方は、家族の承諾を得て、知人へ写真や絵手紙などの送付も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光、臭いに敏感な方が多く、十分気を付けている。又、室内へは、入居者の方々が作られた作品の展示や季節の花、飾りで飾っている。座る席やソファなどの配置もその時々に合わせて変化している。	日当たりがよく、温度・音・光等の管理が適切で空気の淀みもない。壁には利用者の作品、階段やテーブルには職員手作りの作品や花等が置かれ、居心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やテーブルの位置など工夫をしている。狭いため、一人でゆっくり出来る場所が少ないが、いつもと違う椅子に職員と一緒に座って、テレビや編み物、レクなど、ゆったりと過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	街中にある為、居室が狭く、収納もないが、入居の際使われていたタンスや置物などを置かれている。又、ご本人が作成された作品なども貼り、自室時見られている。	利用者の馴染みのある家具・写真・縫いぐるみ等が持ち込まれ、利用者にとって我が家と感じられ居心地良く過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計の段階から十分に配慮されており、混乱などがあればすぐに対応している。証明、配置などに気を付けている。		